

この度6月13日、14日に開催された青年・女性建築士の集い 中四国ブロック香川大会「未来の風景－小さき中に豊かさがあり－」に参加してまいりました。今年の開催地は香川県で、本大会の会場は耐震改修された坂出人口土地の上に建設された坂出市民ホール、中四国から数多くの建築士が集いました。

本大会では地域実践活動報告会があり、各県の代表がそれぞれの地域ごとに取り組んできた活動を報告して事例共有がされました。各地域独自のユニークな活動を聞いて参考になるとともに、大変良い刺激になり、自分たちの県でも地域貢献活動として取り組めそうなものも多数ありました。

広島県は「縁を結ぶ」製図対策講習会」という表題で福山支部が発表をし、昨年に尾道市役所で開催された一級建築士製図対策講習会の内容についての報告を行いました。製図対策講習会は、建築士会のつながりから生まれた取り組みで、次世代の建築士を輩出するとともに、建築士会の取り組みを広く知っていただける良い取り組みだと感じて

います。そのため、今後も長年先輩建築士から受け継いできた活動を改善、継続していくとともに、中四国ブロックや全国の建築士との新しい出会いや連帯を通じて社会に新たな価値を生み出してまいりたいと思います。

分科会では基調講演とワークショップが開催されました。基調講演はデザイン・クリエイティブセンターの永田宏和氏によるご講演で、まちづくりや地域において建築士の担う役割を参加者全員で考えるきっかけとなる内容でした。いかにして建築士としての職能を活かして社会に貢献することができるかということを考える大変良い機会をいただけたと感じています。

大懇親会では、香川県建築士会の皆様が企画をしてくださり、親睦を深めるクイズやうどんをはじめとした美味しい料理やお酒などをご提供いただき、心のこもったおもてなしに感謝申し上げます。

本大会を通じて、建築士の仲間とのつながりを強めるとともに、自身のあり方や地域との関わりについて再考する大変意義深い機会になりました。



本大会会場 坂出市民ホール

広島県の地域実践発表

各県の地域実践発表者への質疑応答

MONTHLY 建築士 HIROSHIMA No.212 令和8年9月1日発行
発行 公益社団法人 広島県建築士会 〒730-0052 広島市中区千田町3丁目7番47号
TEL(082)244-6830(代) FAX(082)244-3840 URL <http://www.k-hiroshima.or.jp/>
e-mail : info@k-hiroshima.or.jp

発行人 会長 佐名田 敬荘
編集人 広報委員長 梶川 彰彦



表紙写真について

広島市北部地区学校給食センター・
広島市安佐北食育交流センター

- 建 築 主／広島市長 松井 一寛
- 設計・監理／株式会社NSP 設計
- 施 工／共立建設株式会社 中四国支店
- 所 在 地／広島市安佐北区可部南
- 用 途／工場
- 構 造 規 模／鉄骨造 地上2階建
- 延 床 面 積／5,859.93㎡
- 竣 工 日／2025年10月

本施設は旧安佐市民病院南館跡地の有効活用として、広島市北部の小・中学校等に1日最大1万2千食の給食を届けるため建設された。

給食センターの用途は工場で、敷地の南側に広がる住宅群に対して違和感がないよう工場らしくないデザインを検討した。また2階に食育を発信する場として見学スペース・食育展示スペース等を備え、気軽に市民が訪れる雰囲気とした。

外観はスクエアな形で高さを極力抑え、フォルムは分節する箱の組み合わせや分節する色の塗分けで、人を威圧するようなボリュームとならないように配慮した。外壁色は木とホワイトグレーの2色でまとめ派手さを抑えシンプルでやさしい雰囲気を纏う様にした。

西側隣地には同時期に木製遊具をメインとした安佐北多目的交流広場が建設された。この広場は本施設の玄関前に位置しており、給食センターの外壁を木風サイディングとし、2階テラスには木風の縦格子を設けて、広場の木のイメージと一体化するようにした。



CPD 認定プログラム(9 ～ 11 月広島県内実施分)

2026年7月30日現在

日 時	プログラム名	単位	主 催	連絡先
9/26	令和8年度 広島県ヘリテージマネージャー養成講習会(3)	6	広島県建築士会	082-244-6830
9/30	H3101 事例で学ぶビルにおける給排水衛生設備の保守管理技術	6	高齢・障害・求職者雇用支援機構 広島支部広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
9/30	設計図書整合性向上ガイドブック解説講習会(DVD講習)	1	広島県建築士会	082-244-6830
9/30	総合図作成ガイドライン解説講習会(DVD講習会)	2	広島県建築士会	082-244-6830
10/ 2	令和8年度 広島県木造建築セミナー(2)	3	広島県 林業課(NPO法人サウンドウッズ)	0795-71-1065
10/ 3	令和8年度 広島県ヘリテージマネージャー養成講習会(4)	6	広島県建築士会	082-244-6830
10/ 8	「既存住宅状況調査技術者」講習会(更新講習)	2	広島県建築士会	082-244-6830
10/ 8	適合証明技術者業務講習	3	広島県建築士会	082-244-6830
10/17	H1402 ドローンを活用した測量実践技術	5	高齢・障害・求職者雇用支援機構 広島支部広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
10/18	H1402 ドローンを活用した測量実践技術	5	高齢・障害・求職者雇用支援機構 広島支部広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
10/20	監理技術者講習	6	広島県建築士会	082-244-6830
10/21	既存住宅状況調査技術者講習(新規)	5	広島県建築士会	082-244-6830
10/22	大規模修繕「修繕の心得」講習会(DVD講習)	3	広島県建築士会	082-244-6830
10/22	「設計に活用したい」セミナー地球環境と今後の日本について考える研修会	3	広島県建築士会福山支部	084-923-4820
10/24	令和8年度 広島県ヘリテージマネージャー養成講習会(5)	6	広島県建築士会	082-244-6830
10/26	2026年度被災建築物応急危険度判定士講習会	3	広島県建築士会	082-244-6830
10/28	H1001 実践建築設計3次元CAD技術(活用編)	5	高齢・障害・求職者雇用支援機構 広島支部広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
10/29	H1001 実践建築設計3次元CAD技術(活用編)	5	高齢・障害・求職者雇用支援機構 広島支部広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
11/ 4	H0102 実践建築設計2次元CAD技術(一般図編)	5	高齢・障害・求職者雇用支援機構 広島支部広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
11/ 5	H0102 実践建築設計2次元CAD技術(一般図編)	5	高齢・障害・求職者雇用支援機構 広島支部広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
11/11	監理技術者講習	6	広島県建築士会	082-244-6830
11/13	第41回建築セミナー「地球のディテール」	2	広島県建築士会呉支部	0823-25-0230
11/14	H0202 実践建築設計2次元CAD技術(建築図編)	5	高齢・障害・求職者雇用支援機構 広島支部広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
11/14	令和8年度 広島県ヘリテージマネージャー養成講習会(6)	6	広島県建築士会	082-244-6830
11/15	H0202 実践建築設計2次元CAD技術(建築図編)	5	高齢・障害・求職者雇用支援機構 広島支部広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
11/18	既存住宅状況調査技術者講習(更新)	2	広島県建築士会	082-244-6830
11/26	設計図書整合性向上ガイドブック解説講習会(DVD講習)	1	広島県建築士会	082-244-6830
11/26	総合図作成ガイドライン解説講習会(DVD講習会)	2	広島県建築士会	082-244-6830
11/28	H0702 BIMを用いた建築生産設計技術(建築モデル作成編)	5	高齢・障害・求職者雇用支援機構 広島支部広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
11/28	令和8年度 広島県ヘリテージマネージャー養成講習会(7)	6	広島県建築士会	082-244-6830
11/29	H0702 BIMを用いた建築生産設計技術(建築モデル作成編)	5	高齢・障害・求職者雇用支援機構 広島支部広島職業能力開発促進センター	082-245-4338

建築士HIROSHIMA7月号
役員名記載漏れのお詫びと訂正について

建築士HIROSHIMA7月号の4ページの令和8年度定時総会の報告において役員名の記載に漏れがございました。

正しくは以下のとおり、災害対策委員長に「宮迫 勇次」様が選任されております。関係者の皆様、及び会員の皆様に多大なご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。今後はこのようなミスがないよう確認を徹底してまいります。

以下令和8年度・9年度の役員名を再掲させていただきます。

- 会 長 佐名田 敬莊

○副 会 長 濱井 義樹 倉田 まゆみ 濱田 昌範

○専務理事 加藤 史隆

○常務理事 元廣 匡伸 村上 浩一 竹中 哲成

的場 弘明 柳河 元木
- 理 事

杉田 洋

企画総務委員長 濱井 義樹(兼務)

広報委員長 梶川 彰彦

事業委員長 浦山 豊隆

交流厚生委員長 井手口 耕三

まちづくり委員長 廣田 昌治

住宅委員長 佐々岡 由訓

青年委員長 小西 琢真

女性委員長 福繁 愛

CPD制度・専攻建築士制度委員長 橋本 明美

試験業務委員長 相原 直樹

災害対策委員長 宮迫 勇次

ヘリテージ委員長 橋田 勇人

香川 寛治 吉谷 勝美 松本 浩一 栄花 彰子

家頭 昌子 篠部 裕 松田 寛 今井 秀樹

笠井 壮一 渡邊 桂司 荒川 泰生 坂井 泰司

今岡 哲也
- 監 事 田中 貴宏 平賀 克則

人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ。

かつて先人たちが理想を追い、実現してきたデザインや技術は、現代に伝統として受け継がれています。竹中工務店は、その伝統を尊びながら、常に新しい価値や試みを取り入れ、革新的なデザインや技術を創り出すことを目指しています。人と自然が共に豊かになるにはどうしたらいいのか。未来の環境をつくる使命を持って新しい建築を世に送りだしたい。そして、10年後、20年後、100年後、その建物が新しい伝統になり、未来の建築家たちの礎になることを願っています。「最高の作品を世に渡し、社会に貢献する」竹中工務店は、この経営理念のもと、建築の可能性を追い求めています。

想いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA

株式会社 竹中工務店 本社：〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-13 Tel.06-6262-1201 / 東京本店：〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 Tel.03-6810-5000

委員会活動報告

(公社) 広島県建築士会には12の委員会と会員増強推進チームがあります。

9月号では各委員会の令和7年度の活動報告・令和8年度の活動予定をお知らせします。

企画総務委員会

委員長 濱井 義樹

広島県建築士会は本年6月より新たな役員体制となりました。顔ぶれの大幅な刷新というまでには至っておりませんが、会長の改選方法や役員の選任方法について、従来の規定等を様々に見直した結果としての、いわば持続可能な役員制度がスタートしたと言っても過言ではないと思います。

また理事会や各種委員会など、かつては対面のみであった会議等にもリモート参加可能なものが増えているなど、各役員さん方が大きな負荷を感じずに参加できる運営体制は着々と実現しつつあります。

さらには役員の方だけでなく、会員の皆様方にも気軽に様々な事業の運営に関わっていただくことができるようになれば、それこそが直接的に広島県建築士会自体の活性化につながるものとなるはずです。

こうした体制や制度などの環境整備についても、企画総務委員会の大きな役割の一つであると考えています。

交流厚生委員会

委員長 井手口 耕三

交流厚生委員会では、会員の親睦交流事業において活気あふれる活動を毎年行っております。今年度の行事としましては、第43回支部対抗ゴルフ大会を尾道支部が幹事で11月14日(土)に尾道うずしおカントリークラブで開催する予定です。

また、第51回ボウリング大会においては県北支部が幹事で令和9年2月6日(土)に開催する予定です。詳しい行事の内容については、マンスリーを通じて報告を行っていきますので多数の方のご参加をお待ちしております。

災害対策委員会

委員長 宮迫 勇次

○災害発生時の対応に関すること。(避難所間仕切り設置支援、建築相談員や応急危険度判定士の派遣)

○平時の防災訓練や防災フェアにおける協力に関すること。(間仕切り組立て指導や活動紹介)

○広島県災害復興士業連絡会に関すること。(定期会合や講演対応)大規模化、頻発化する自然災害への防災対策、生活再建への支援活動などを行っています。これまでの被災建物の危険度判定員、建築相談員の派遣、また避難所暮らしの衛生・プライバシーを守るための紙管間仕切りの設置協力等を行っています。令和6年6月には紙管を提供するVAN(ボランティア・アーキテクト・ネットワーク/坂茂代表)と広島市、広島県建築士会の3者による協定を結びました。

一方、土木系の技術士会、法律系の弁護士や行政書士等、また福祉系、医療系などが加わる15分野の専門家団体による「広島県災害復興支援士業連絡会」に参加し、災害発生時は専門的な支援活動するとともに、平時は予防啓発活動を通して、ワンストップ型の防災まちづくりへの技術を支援しています。



広島市土災害時の建築相談

広島市役所での3者協定



区役所や自主防災会の主催する防災訓練における勉強会や間仕切り設置指導など

CPD・専攻建築士委員会

委員長 橋本 明美

当委員会ではCPDプログラム認定申請及び専攻建築士登録申請の事前審査をおこなっています。建築士会のCPDプログラムに認

定されていない講習会等(建築士会以外の各種団体や民間の企業等の講習)を受講した場合は、自己申請によりCPD単位の認定を受けることができます。近年の傾向としては建築士会CPDが経審(経営審査事項)の加点対象となったため自己申請による申請数が増加傾向にあります。また専攻建築士の登録更新時期を逃した場合であっても再登録手続きが可能となりました。専攻建築士制度については建築士会ホームページに詳細を掲載していますので、ぜひご覧ください。

試験業務委員会

委員長 相原 直樹

試験業務委員会では、一級建築士・二級建築士・木造建築士試験の試験監理業務を担当しています。本年度も、7月に実施された二級建築士学科試験及び一級・木造建築士学科試験において、多くの会員の皆様にご協力いただき、公平・公正な試験運営を行うことができました。早朝から長時間にわたる監理業務にもかかわらず、ご参加いただいた皆様には心より感謝申し上げます。

今後は、9月の二級建築士設計製図試験、10月の一級・木造建築士設計製図試験の監理業務を予定しております。委員会では、受験者が安心して試験に臨める環境づくりを第一に考え、関係機関との連携を図りながら円滑な試験実施に努めてまいります。

建築士試験は、建築士を目指す方々にとって重要な資格取得の機会であり、その運営を支えることは建築士会の重要な役割の一つです。試験業務委員会としては、これまで培ってきた経験を継承しながら、より適正で信頼される試験運営を目指して活動してまいります。

また、委員会活動を継続していくためには、新たな担い手の確保も重要な課題です。近年一級建築士試験に合格された会員の皆様には、ぜひ建築士会に参加いただき、試験監理業務を通じて建築士資格制度を支える活動にご協力いただければ幸いです。

今年度も委員会一同、責任と誇りを持って業務に取り組んでまいりますので、会員の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

事業委員会

委員長 浦山 豊隆

事業委員会では主に、広島県建築士会主催で行う年1回の事業として、「公開まちづくりセミナー」と題した講演会の開催について、企画し、運営を行っています。これまで、「公開まちづくりセミナー」では広島に関連した話題とともに、建築家などの専門家を講師にお迎えし、ご講演をお願いしております。昨年度は、ひろしま国際建築祭の出席につながるようなかたちで行いたいと思い、SANAAの西沢立衛氏を講師にお迎えし、3月23日広島YMCA国際文化ホールにて『自作について』というタイトルで講演会を行いました。

その他の活動としては、公開まちづくりセミナーの開催にあわせて、3月15日、西沢立衛氏の作品である豊島美術館見学会を兼ねて、サイクリングでの豊島めぐりを行いました。

今年度の「公開まちづくりセミナー」につきましては、2月頃に開催できるよう、企画、準備を進めていきます。ぜひ、ご参加いただきますようお願いいたします。

まちづくり委員会

委員長 廣田 昌治

本年度より委員長を務めさせていただきます、県北支部の廣田です。

まちづくり委員会は、各県のまちづくりを建築士の立場から精力的に活動されている皆さんにお話を伺いして見学し、広島県・各支部でのまちづくりに生かしていく委員会です。

昨年度も色々な地区を見学しました。その地域とそのシンボリックな建築に誇りを持って活動されている皆さんにお話を聞いて毎回、感銘を受けています。私どもの今年度と来年度の活動の中心は令和9年度に開催される「全国まちづくり会議in尾道」の準備がメインになります。令和6年度に「尾道空き家再生プロジェク



ト」がまちづくり大賞を受賞され、全国のまちづくり委員の皆様より尾道開催をリクエストされる声が集まり実現に向けてスタートしています。

尾道の空き家再生プロジェクトの皆さまにもご協力をいただき、皆様のこれまでの功績を参加者の皆さんにしっかりお伝えし、尾道の良さを満喫していただく内容にしたいと、知恵を絞ってまいります。それには私ども各支部から1名では足りません。準備から当日のお手伝いまで、あるってご参加ご協力をお願いします。

興味のある方はぜひともまちづくり委員会までご連絡をお願いいたします。

その他にも各地域に訪問するイベントも企画していますので、この紙面を通してご案内します。楽しい委員会なのでぜひご参加下さい。

住宅委員会

委員長 佐々岡 由訓

住宅委員会では、住宅に関する事業として、住宅講演会、見学会の開催、イベントへの参加、勉強会などを行っています。委員のメンバーは県内各支部から集まった14人で活動しています。

昨年度は、6月に岡山県備前市の特別史跡旧閑谷学校を見学に行きました。向山徹氏にレクチャーをしていただき、フィールドワークを通して敷地内を回り、水の流れなどを観察しました。12月には、講師に能作文徳氏を迎え、YMCA国際文化センターにて「和の住まい推進リレーシンポジウム」として講演会を開催しました。～伝統知から建築を考える～をテーマに能作氏の活動や取り組みをお話いただきました。今年度も講演会を鋭意企画中ですので、ぜひご参加ください。

委員も随時募集中です。無理のない範囲で参加していただけますので、住宅委員会に興味のある方はご連絡ください。



青年委員会

委員長 小西 琢真

青年委員会では、2ヶ月に1回の各支部持ち回りで青年委員会を開催しております。その他にも県内の各支部青年委員間の交流、中四国ブロックの青年委員会の方達との親睦も深めております。

今年は、令和8年度青年・女性建築士の集い中四国ブロック香川大会「未来の風景―小ささ中に豊かさがあり―」へ参加してきました。中四国の青年・女性建築士の方たちと意見交換を行い、多くの知見を得ることができました。

また、7月には福山支部が中心となって1級建築士製図試験対策実例見学会を開催しました。未来の建築士が全国から広島に集まって頂き、とても実りのある見学会でした。

今後会員の増強・親睦を中心に各支部での定例会とあわせて、見学会・ワークショップを計画しております。詳細は随時ご案内しますので、ぜひご参加ください！



女性委員会

委員長 福繁 愛

建築に携わる女性同士が世代を超えてつながり、日々の業務や暮らしに「ひらめき」と“実用”をもたらす女性委員会。誰もが自然体で参加できる温かい雰囲気大切に活動しています。

令和7年度の主な活動は、防災パラコード作りのワークショップ、青年・女性建築士の集い中四国ブロック岡山大会参加、全国女性建築士連絡協議会山形大会参加、たてものがたりフェスタにてワークショップ開催、福山・神勝寺特別見学会(建築と空間の美を学ぶ)です。防災から地域連携、建築美に触れる見学会まで、五感を刺激する充実した1年となりました。

令和8年度の主な活動は昨年と同様、5月：防災パラコード作りのワークショップを実施、6月：青年・女性建築士の集い中四国ブロック香川大会に参加、7月：全国女性建築士連絡協議会東京大会(全国的女性建築士との交流及び情報交換)参加、これから11月はたてものがたりフェスタにて「折紙建築ワークショップ」を開催、2～3月は建物見学会(尾道予定)を計画しています。

今年は、学生の皆さんや青年委員会と協働でのイベント活動を企画しています。世代や委員会の枠を超え、より多角的な視点で建設業界の未来と向き合う、ワクワクするような学びの場をお届けする予定です。

少しでも興味を持たれた方は、ぜひ一度、私たちの活動に触れてみてください！



広報委員会

委員長 梶川 彰彦

広報委員会では、会報紙編集・発行やホームページの運営など広島県建築士会の広報活動全般を担っています。中でも会報紙「建築士 HIROSHIMA」の編集・発行(令和8年度から隔月発行)が主な活動内容ですが、建築士会の活動状況や関係法令の改正内容などをタイムリーに発信し、建築士に必要な情報を的確に提供することに努めています。

本年1月から掲載を始めた特集記事は、建築士の興味を引きそうな内容をピックアップして少し詳しい情報を紹介することとしており、その筋の専門者に3回程度の連載で書いていただいています。まだ手探りの段階ですので、皆様の中で「この情報が知りたい」といった要望がありましたら本部事務局までお寄せください。

また、表紙は会員の作品発表の場として活用されていますので、ご自身の作品を表紙に掲載したいという方も事務局に申し出てください。

ヘリテージ委員会

委員長 橋田 勇人

ヘリテージ委員会では毎年、ヘリテージマネージャー養成講習会を運営しており本年で13回目となります。昨年度までの登録者数は258名となりました。ヘリテージマネージャー(以下HM)(地域歴史文化遺産保全活用推進員)とは地域に眠る歴史文化遺産を発見し、保存し、活用して地域づくりに活かす能力を持った人材のことです。近年では歴史的建造物等が被災した際には中四国9県のHMが連携し歴史的建造物の被災調査を行うという「被災歴史的建造物被災調査活動に必要な相互応援に関する協定」が結ばれ被災調査という新たな活動も始まっています。またこうした歴史的建造物がどこにどれくらいあるのかの調査も開始されており、文化庁では「近現代建造物緊急重点調査」として各都道府県で数県ずつ分割して調査が開始されており広島でも今後HMも参加した調査が行われる予定です。

また、それに先だって呉市では独自に市内全域を悉皆調査する計画が進められており広範囲にHMが活躍できる場所が徐々に広がっていて、それらに対応できるよう更なるHMの育成が必要になってきています。

HMは全国で養成が行われており「全国ヘリテージマネージャネットワーク協議会」等を通じ日本中のHMの活動の情報をすることもできます。また、HMは建築士でなくても養成講習を受講できますのでこうした活動に興味のある方の参加をお待ちしております。



会員増強チーム

倉田 まゆみ

このたび、総合資格祝賀会における勧誘活動の結果、30名の皆様にご入会いただきました。今回のご入会は、会員増強活動における大きな成果であり、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。新たに加わった30名の皆様に温かくお迎えし、イベントや勉強会への参加を積極的にお声がけしながら、活動を通じて交流を深め、組織のさらなる発展につなげてまいります。

また、会員増強の取り組みの一環として、青年女性委員会では今年度、学生の皆さんとイベント活動を共同で行う予定です。活動を通じて交流を深め、当会の理念や魅力を知っていただくことで、将来的な入会につながるよう取り組んでまいります。

さらに、賛助会員の皆様への勧誘も引き続き進めるとともに、勉強会の開催を通じて交流と学びの機会を充実させ、会員同士のつながりをより一層深めてまいります。

今後とも、会員増強活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

建築士も活用がしやすくなった 3D 計測技術

1985 年当時「専門家しか扱えなかった 3D 計測」が、3D 計測のアルゴリズムの進化により、一般の建築士でも使える技術となった。「自分も試してみたい」と思うような 3D 計測手法について、3 回にわたり事例を示しながら紹介します。

その2 UAV・レーザ・SLAM —3D 計測の“実務での使い分け”

(株)コバコン 西村 正三
 (株)計測リサーチコンサルタント 安井 伸顕

1. はじめに：建築士が判断できる 3D 計測へ

第1回では、写真測量から SfM までの技術進歩を紹介し、建築士自身が扱える 3D 計測技術が身近になってきたことを述べた。しかし実務では、一つの計測手法だけであらゆる対象や目的に対応できるわけではない。建築物の規模や必要精度、作業環境、求められる成果に応じて、さまざまな 3D 計測技術を適切に選択・活用することが重要である。

本稿では、その中でも建築分野で利用される代表的な計測手法である、UAV（ドローン）計測、地上型レーザスキャナ（TLS）、SLAM（歩行型計測）の特徴と使いどころを整理するとともに、令和元年度広島県ヘリテージマネージャー養成講習会で実施した「ホテルの宿自然学校」の事例を紹介する。

2. 建築分野で利用される代表的な 3 つの計測手法

2-1 UAV 計測

UAV 計測は、高所や広範囲の対象を安全かつ効率的に計測できる手法である。建築物の外観や屋根形状の記録のほか、高所点検やインフラ施設の調査など幅広い分野で活用されている。取得できる精度は対象物や撮影方法、基準点の設置条件などによって異なるが、現況調査や 3D モデルの作成などに広く利用されている。計測にあたっては、飛行に関する法令や安全管理に加え、風や日照条件、周囲の障害物、GPS 受信状況など、計測精度や安全性に影響する条件を十分考慮する必要がある。撮影から 3D 生成の流れを図1に示す。

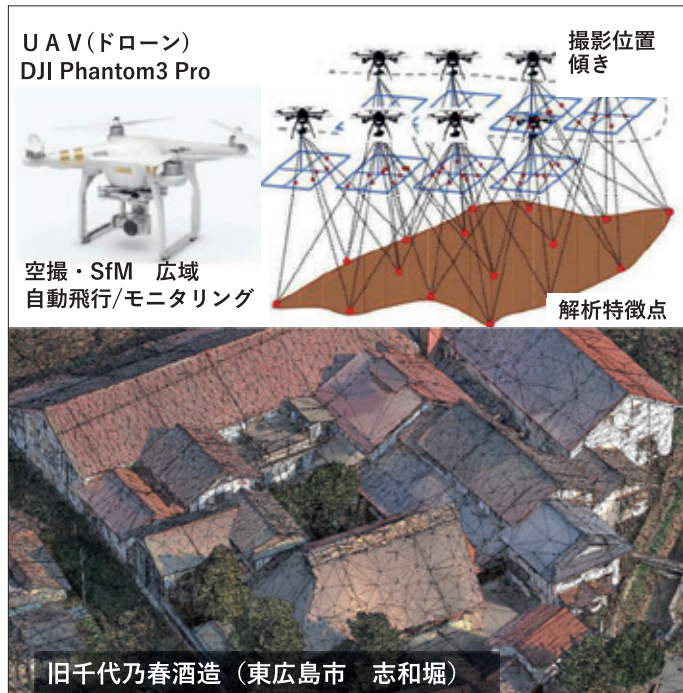


図1 UAV撮影／3Dモデル生成の流れ【QR：UAV】

2-2 地上型レーザスキャナ

地上型レーザスキャナ（以下 TLS）は、高密度・高精度な点群を取得できる計測機器である。柱・梁・小屋組など建物内部の詳細な形状を記録でき、図面化や BIM モデル作成、文化財の保存記録など、高い精度が求められる場面で威力を発揮する。精度は使用機材や計測条件によって異なるが、一般に数 mm 程度の高精度な計測が可能である。一方、ガラス面の反射や死角への対応、設置位置の工夫が必要となる。TLS を用いた小屋組計測の概要を図2に示す。

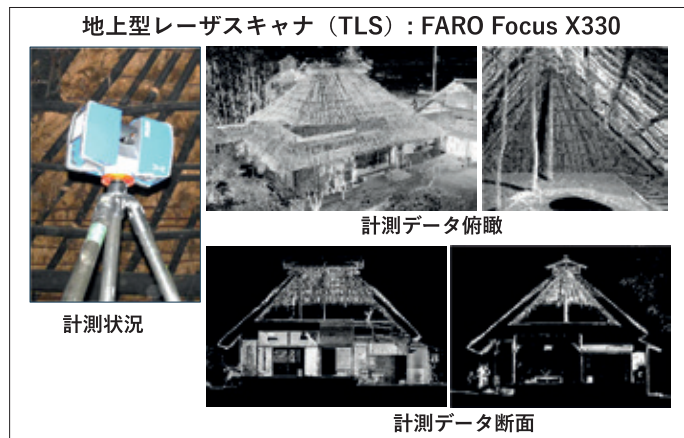


図2 3Dレーザを用いた小屋組計測の様子

2-3 SLAM（スラム：歩行型計測）

SLAM は、レーザやカメラを搭載した機器を持って歩くだけで、自己位置を推定しながら 3D 点群を生成する技術。三脚を設置する必要がなく、建物内部や街並みなど屋外空間も短時間で連続的に計測できる。TLS と比較すると精度はやや劣るが、建物や街区の現況把握、改修や保存に向けた初期調査などに活用が広がり、TLS などと組み合わせられて利用されている。SLAM 計測の様子と取得データの概要を図3に示す。2. のまとめとして、3 種類の計測手法を表1に一覧にして示す。

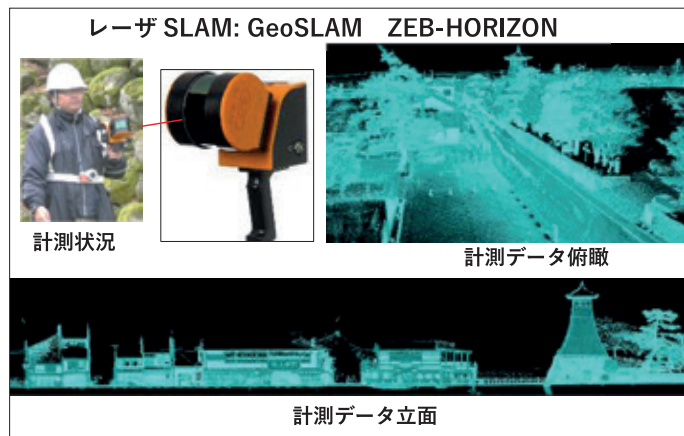


図3 SLAM計測の様子と取得データ【QR：SLAM】

表1 建築分野における代表的な 3D 計測手法の特徴と使い分け

項目	UAV計測	地上型レーザスキャナ（TLS）	SLAM（歩行型計測）
計測原理	写真	レーザ	レーザ※ ¹
特徴	高所や広範囲を効率的に計測	高精度な三次元形状を取得	歩きながら連続的に計測
精度の目安※ ²	数cm程度	数mm程度	数cm程度
向いている場面	屋根・外観・高所の調査	詳細形状の記録・図面/BIM作成	建物・街区の現況把握・初期調査

※¹ SLAMにはレーザ方式やカメラ方式などがあるが、本稿ではレーザを用いたSLAMを対象とする

※² 記載した精度は一般的な目安であり、対象物、使用機材、計測条件、計測方法などにより異なる

3. 事例紹介：ホテルの宿自然学校

3-1 調査の背景

広島県ヘリテージマネージャー養成講習会では、受講者が県内の歴史的建造物を調査し、「私が見つけた文化財」として発表する課題がある。私を含む D 班では、東広島市志和堀にある「ホテルの宿自然学校」を対象に、UAV 計測、TLS、実測を組み合わせ、建物全体を記録した。

3-2 使用した機材（2019 年当時）

UAV：DJI Phantom3 Pro

TLS：FARO Focus X330

実測：細部寸法の補完

データ処理：取得した点群データを ArchiCAD に取り込み、図面化・BIM モデル生成

当時の機材は現在では旧式だが、技術の本質は“機材の新しさ”ではなく“使い方”であることを示す好例として紹介する。

3-3 役割分担と成果

本事例では、UAV 計測により屋根や外観を取得し、TLS で屋内や小屋組を高精度に計測した。また、細部については実測により寸法を補完した。茅葺屋根の小屋組は、部材配置が不規則で納まりも複雑であるため、従来の実測のみでは正確な形状把握が難しい。取得した点群を ArchiCAD の下敷きとして利用することで、高精度な BIM モデルを構築し、建物全体を効率よく再現することができた。現在では、建物全体の現況把握には SLAM 活用し、図面化や BIM モデル作成が必要な部分を TLS で補

完するなど、目的に応じた計測手法の使い分けが有効である。

図4に UAV・レーザ計測の点群から図面作成・BIM モデル作成までの流れを示す。

4. おわりに：3D 計測を使いこなすために

3D 計測は、建築士が実務で活用できる技術として成熟してきた。しかし重要なのは、「どの計測手法が優れているか」ではなく、「何を目的として計測するか」である。

UAV 計測、TLS、SLAM は、それぞれ得意とする役割が異なる。建物全体の概況把握、高精度な図面化や BIM モデル作成、現況調査など、目的に応じて適切な計測手法を選択し、必要に応じて組み合わせることが、効率的で質の高い調査・設計につながる。

建築士が各計測手法の特徴を理解し、適材適所で活用することが、これからの保存・改修・設計における 3D 計測の可能性をさらに広げていくと考える。

本稿の内容は、QR コードから視聴できる約 5 分の動画とも連携しており、紙面と映像の双方から理解を深められる構成としている。



図4 UAV撮影・レーザ計測の点群から図面・BIMモデル作成の流れ【QR：ホテル】

■大会 1日目

開会式に続く活動報告では、京都（古民家の推し活）や長野（環境ECO コンテスト）の魅力ある事例のほか、宮城からは東日本大震災の記憶を紡ぐ15年目の寄り添い型支援が共有され、地域に深く根ざした建築士ならではの情熱に大きな刺激を



【基調講演】

テーマ：『対話が紡ぐ環境デザイン』

未来へつなぐ風、光、熱のかたち』

講師：末光 弘和氏＋末光 陽子氏（SUEP.）

今回は、末光弘和氏・末光陽子氏が主宰されている建築家ユニット「SUEP.」様の基調講演を拝聴いたしました。

お二方の設計に対する姿勢には、地球環境やエネルギー問題をテーマとして掲げ、常に「風・光・熱」を意識しながら、さまざまなシミュレーションを用いて詳細な設計を行われているという特徴がありました。

特に印象的だったのは、熱の流れや光の方向を細部まで入念に検証される姿勢です。その緻密な検討からは、建築や環境に対する強い情熱がひしひしと伝わってきました。また、実際の設計事例をもとに、それぞれの建築に込められたコンセプトや計画のプロセスについても詳しくご説明いただきました。例えば、計画地にある既存の樹木を残し、その木を中心として光の入り方などを検討しながらプランを決定していく過程は、自然環境を尊重しながら建築をつくる姿勢がよく表れており、

【A分科会】

創造系不動産の高橋寿太郎氏を迎えたA分科会では、「建たない時代」における建築士の職能のアップデートと、新たなキャリアの可能性について深い学びを得ました。

高橋氏が提唱する「不動産思考」は、建築家が敬遠しがちな資金計画や融資、相続、土地探しといった課題に寄り添うアプローチです。デザインだけでなく、コストパフォーマンスや事業としての将来性まで見通す視点を持つことで、



受けました。

基調講演では、建築家ユニットSUEPの末光弘和氏・陽子氏が登壇。「対話が紡ぐ環境デザイン」をテーマに、風・光・熱を捉えた設計と思考法が示され、お二人のマクロとミクロの視点からのアプローチには目から鱗が落ちる思いでした。その後の「ワンバイワン」や交流会でも、全国の参加者との対話やネットワークづくりが活発に行われました。地域の課題解決から最新の環境思考まで、明日からの実務や活動への大きな原動力となる貴重なひとときとなりました。

（呉支部 小玉 志帆）

とても印象に残りました。

さらに、竣工後の建物において、住人の方々が自然との関わりを大切にしながら生活されているというお話も心に残りました。建物を単に「完成させる」のではなく、そこに暮らす人と自然との関係までを含めて建築を考えていることが感じられ、私自身も温かく優しい気持ちになりました。

今回の講演を通して、建築とは建物そのものをつくるだけでなく、風や光、熱といった自然の力を読み解き、人と自然が共に豊かに暮らせる環境をつくることなのだと思えました。

（県北支部 倉田 まゆみ）

プロジェクトの本質的な価値を高められると実感しました。

特に印象的だったのは「古い建物を取り壊して建て替えるのは、資金面で大きな損になり得る」というお話です。人口減少に伴い空き家や既存ストックが増加する現代において、今ある建物をどう活かすかという視点は欠かせません。既存の建築に新たな命を吹き込むには、建物の歴史や立地の希少性を見極める「建築家の視点」と「建築愛」が不可欠です。価値あるものを取り壊すのではなく、継承すべき要素を見極めて未来につないでいく姿勢の大切さを再認識しました。

後半では、女性にこそ経営を学んでほしい、女性の経営者を増やしたいという熱いメッセージをいただきました。建築・不動産・経営の壁を越えた思考を持つことで、私たちの職能と社会への関わり方はさらに自由に広がっていくはずです。学びを今後の活動に活かしていきたいと思います。

（広島支部 福繁 愛）

【C分科会】

「次の世代にのこすために」

～後藤織物総合調査のこれまでとこれから～

司会者：萩原 香（群馬県建築士会）

コメンテーター：久保田 眞理子（群馬県建築士会）

後藤織物は、工場や母屋などの建築群が国登録有形文化財、近代化産業遺産、ぐんま絹遺産、日本遺産に指定されており、それぞれの建物の配置や構成が、機屋（はたや）としての織物産業の生産システムを現在に伝える貴重な建築群です。

機屋としての歴史に幕を閉じた後、通常であれば解体されても不思議ではない状況と思われますが、地域の有志による民間企業が出資して新たな会社を設立し、その会社が所有権を取得することで、建物の保存・活用へと大きく舵が切られた経緯が紹介されました。

また、保存活用を進める過程では、当初携わっていたメンバーが徐々に離れていく中でも、残ったメンバーが建物や資料の総合調査を継続し、その積み重ねを通して多くの知見を

【E分科会】

「鉄道好き集まれ！ 駅舎の利活用から広がるまちづくり」

司会者：畠中 みか（和歌山県建築士会）

コメンテーター：笠木 和子（和歌山県建築士会）

全国のJRで無人駅は約4000件あり、利用者数の減少に伴い廃止・統廃合が進行しているが、地域の顔・原風景になっている駅舎も数多く存在しています。E分科会では、和歌山市にある路線変更や廃線の影響で解体予定となった「JR紀伊中ノ島駅」の保存活動の報告を聞きました。

「JR紀伊中ノ島駅」には昭和10年築のモダンな木造駅舎と1902年製を最古とした官営八幡製作所創業当初のレールが比類ない規模で使用されて産業遺産にも認定されていたホーム上屋があったが、上屋は一部を残し撤去され、駅舎も解体予定であったが地域住民や駅舎の保存・活用を考える仲間で結成された「紀伊中ノ島倶楽部」の保存活動により駅舎は残ることとなった。

保存活動を経て来年度JRから和歌山市へ駅舎が譲渡され、

■大会 2日目

2日目は会場・オンライン合わせて251名が参加。全体会ではA～F各分科会から建築経営や次世代育成、防災、まちづくりなど幅広い活動が報告され、各分科会への関心が高まりました。連合会の古屋会長は、「鳥の目」と「虫の目」の双方の視点の大切さに触れ、今回の企画や提案が建築士会をより魅力あるものにしていくとの期待を語られました。次回の群馬大会も魅力的な企画が予定され、参加が楽しみになる締めくくりでした。

（広島支部 居藤 節子）

来年度の第36回全国女性建築士連絡協議会は、神奈川県で開催されます。

大会テーマは『継承と創造のはざまで択び採る』です。

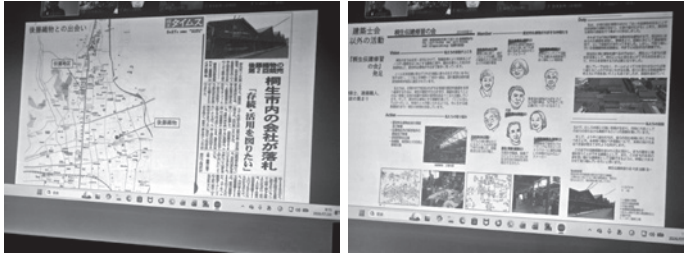
■2027年7月16日（金）～17日（土） ■会場：横浜市開港記念会館

来年5月から、参加募集を行います。たくさんの現地参加、Web参加をお願いします。

得てきたことが語られました。特に印象的だったのは、調査の現場で交わされた議論や、調査報告書を取りまとめるまでの試行錯誤についての話です。調査結果をどのように整理し、根拠を積み上げていったのか、数多くの苦労や工夫があったことが伝わりました。

一連の話からは、単なる「地元愛」だけではなく、地域の歴史や文化を未来へ継承するという強い思いと責任感が感じられ、建築文化遺産の保存・活用には、継続的な調査と客観的な記録の重要性が不可欠であることを改めて認識しました。

（呉支部 家頭 昌子）



今後の駅舎の活用や管理運営は紀伊中ノ島倶楽部が担うとのことでしたが条件は色々厳しいようです。地域の象徴として親しまれてきた歴史的な駅舎の再生と地域のアイデンティティとして魅力ある場所へ持続可能な事業構想を計画中とのことでした。

今回の分科会の開催にあたり全国の駅舎の紹介もありました。島根県「旧大社駅」 兵庫県「餘部駅」 長崎県「大三東駅」 和歌山県「湯浅駅」「加茂郷駅」「初島駅」 福岡県「うきは駅」 奈良県「柳本駅」「京終駅」 徳島県「坪尻駅」近くに行った際には駅を見してみるのもいいです。

（福山支部 小森 由香子）



建物一斉公開イベント ひろしまたてものがたりフェスタ2026

広島&呉で41のイベントを開催！参加費無料！

広島エリア:11月 6日(金)～ 8日(日)
呉エリア:11月14日(土)～15日(日)

ひろしまたてものがたりフェスタ（たてフェス）とは

建物見学会（特別公開、ガイドツアー）やオープンアトリエなど様々なプログラムを通して、
広島の魅力的な建築を見て・触れて・知ることができるイベントです。

【申し込み方法】

ホームページにて10月上旬からガイドツアー等の申込受付開始
建物ごとに、事前申込が必要なイベントと、事前申込が不要のイベントがあります。
詳しくは、9月中旬に掲載予定の公式ホームページまたはガイドブックをご覧ください。

【ガイドブックの配布について】（9月中旬から配布開始）

広島県内各所（県庁営繕課や美術館などの公共施設、観光案内所など）で無償配布します。

また、公式ホームページで、郵送での受取りの申込みが可能です。（送料のみご負担ください。）公式ホームページからPDFデータでご覧いただくことも可能です。

【たてものがたりフェスタ2025の様子】



ガイドツアー
（広島西消防署）



オープンアトリエ
（SUPPOSE DESIGN OFFICE）



ガイドツアー
（呉リノベーション店舗めぐり）



たてフェス公式ホームページ
<https://tatefesta.info/>



昨年度のガイドブック

とびだせ！
アーキテクト！
こども建築家、大集合

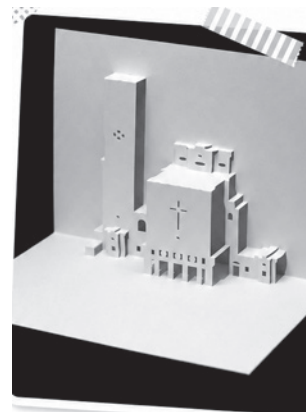
広島県建築士会女性委員会・青年委員会による
子ども向けワークショップを開催します！

型紙から立体の建物が飛び出す「ポップアップ建築（折り紙建築）」をつくる
ワークショップ。

建物の形やしくみに興味を持つきっかけを、子供たちの視点で楽しく創出します。
初めてでも気軽に挑戦できるような型紙を用意してお待ちしています。
（協力＝広島県建築士会女性委員会・青年委員会）

【日時】 11/8（日）10:00～12:00 14:00～16:00
【対象年齢】 8～15歳（カッターナイフが使えること）
【定員】 各回12名
【申込】 たてフェス公式サイトから申し込み
【会場】 イノベーション・ハブ・ひろしま Camps
（広島市中区紙屋町1-4-3）

【注意】 9歳以下のお子様は保護者の同伴が必要です。
【問合せ先】 広島県建築士会 本部事務局 ☎082-244-6830



【主催】ひろしまたてものがたりフェスタ実行委員会

フェスタ実行委員会事務局（広島県土木建築局営繕課 営繕企画グループ内） [電話] 082-513-2311



「より早く・より親切に・より分かり易く」をモットーに
より確かなサービスを提供します



■ 指定確認検査機関

■ 登録建築物エネルギー消費性能判定機関

■ 住宅瑕疵担保責任保険業務

■ 指定構造計算適合性判定機関

■ 適合証明業務（フラット35）

■ 調査診断業務
（違法性調査、定期報告等）

■ 登録住宅性能評価機関

■ 長期使用構造等の確認業務

■ 建築物省エネルギー性能表示制度
（BELS）評価業務

12条点検は弊社におまかせください



株式会社 ジェイ・イー・サポート

URL <https://www.jesupport.jp/>

e-mail: mail@jesupport.jp

本社 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-8-6F
TEL: 082-836-3300 FAX: 082-228-8201
東京支店: 東京都千代田区神田富山町22-7F
福岡支店: 福岡県福岡市中央区天神四丁目3-30-7F

指定確認検査機関（中国地方整備局長指定第1号） 登録住宅性能評価機関（中国地方整備局長登録第5号） 登録省エネ判定機関（中国地方整備局長登録第3号）

BELS 低炭素建築物 長期優良住宅 建築確認 住宅瑕疵担保 フラット35 適合証明 住宅性能評価 省エネ適判

ハウスプラス中国は
迅速、的確な審査で、皆様の建物の
安全、安心をサポートします。

中国エリアをすばりカバーしています



ハウスプラス中国住宅保証株式会社
<https://www.jutakuhosho.com/>

広島支店・広島本店: 広島市中区国泰寺町1-3-32 国泰寺ビル
TEL: 082-545-5607 FAX: 082-545-5608



建物に関わる全ての人に感動を

株式会社 ティーエス ハマモト

安全で安心な住まいづくりをサポートします。



◆ 建築確認・検査

◆ 住宅性能評価

◆ フラット35 適合証明

◆ 長期優良住宅技術審査

◆ 低炭素建築物技術審査

◆ 住宅かし担保責任保険

◆ 省エネ関連業務

◆ リフォーム評価ナビ

◆ ベターリビングリフォーム審査業務



指定確認検査機関・登録住宅性能評価機関

株式会社 広島建築住宅センター

URL: <http://www.hkjc.co.jp>

本社 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-10
TEL: (082) 228-2220 FAX: (082) 228-2231
営業所 〒720-0034 福山市若松町8-22
TEL: (084) 928-3979 FAX: (084) 928-3974